
令和3年度
みえの防災活動事例集
～防災の日常化をめざして～

三重県防災対策部
防災企画・地域支援課

はじめに

今年は大規模な被害をもたらした東日本大震災から10年の節目の年です。現在も含め近い将来、三重県に大きな被害をもたらすことが懸念される南海トラフ地震の今後30年以内の発生確率は「70～80%」であり、大阪府北部を震源とする地震や北海道胆振東部地震のような内陸直下型地震もいつどこで発生してもおかしくない状況です。また、令和元年台風第19号や令和2年7月豪雨では、各地に大規模な被害が発生するなど、風水害も頻発しています。このような状況の中で、私たちは、「いつか来る」災害である地震・津波や「いつも来る」災害である風水害など、あらゆる災害への「備え」を着実に進める必要があります。

そのためには、自らの安全は自ら守る「自助」、自らの地域は住民の皆さんで守る「共助」、行政及び防災関係機関が担う「公助」の理念に基づいて、県民の皆さん、自主防災組織、事業者、市町、県、防災関係機関等がそれぞれの役割を果たしていくことが重要です。

そして、災害への備えが非日常的な特別な活動ではなく、日々の業務や生活と一体となった当たり前の活動となること、すなわち「防災の日常化」を意識し、日頃から災害に対する十分な備えを進めていく必要があります。

この事例集では、「みえ地震・津波対策の日シンポジウム」において表彰された、令和3年度「みえの防災大賞」受賞団体の特色ある自主的な防災活動を紹介しています。これらの活動を参考に、それぞれの地域に合った防災活動に取り組み、皆で「災害に強い三重づくり」を進めましょう。

令和3年12月 三重県防災対策部

「みえの防災大賞」とは

「みえの防災大賞」は、県内各地で自主的な防災活動に取り組んでいる団体を表彰し、これらの活動を県民の皆さんに広く知っていただくことにより、災害に強い三重づくりを進めることを目的として、平成18年度から実施しているものです。

令和3年度は、13団体から応募があり、選考の結果、「みえの防災大賞」1団体、「みえの防災特別賞」1団体、「みえの防災奨励賞」4団体を決定し、表彰しました。



目 次

みえの防災大賞

- ・ つもとちくじしゅぼうさいかい 津本地区自主防災会 1
(紀宝町)

みえの防災特別賞

- ・ かぶしきがいしゃやましたぐみ 株式会社山下組 2
(志摩市)

みえの防災奨励賞（50音順）

- ・ かんざきじょせいぼうさい かい 神前女性防災の会「アイリス」 3
(四日市市)
- ・ たいわちくじしゅぼうさいれんらくきょうぎかい 大和地区自主防災連絡協議会 4
(桑名市)
- ・ たまきちょうぼうさい 玉城町防災ボランティア 5
(玉城町)
- ・ みやまえ きょうぎかい 宮前まちづくり協議会 6
(松阪市)

令和3年12月5日（日）にNTNシティホール（桑名市民会館）大ホールで開催された「みえ地震・津波対策の日シンポジウム」において、令和3年度「みえの防災大賞」表彰式が行われました。





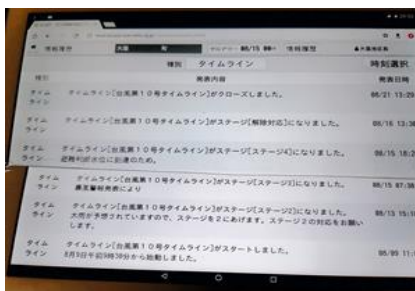
紀宝町津本地区では、平成23年の紀伊半島大水害で甚大な被害を受けました。その後の住民アンケートで自主防災組織の必要性についての意見が多かったことを受けて「津本地区自主防災会」が発足し、現在も活動を続けています。

平成24年の発足当初から、防災訓練や炊き出し訓練、子どもから高齢者までの幅広い世代を対象にした防災講話などを継続して開催し、地域の防災力向上に努めています。

令和3年2月の「防災チャレンジ大運動会」では、災害時を想定した差し掛け屋根の下での車中泊訓練や避難所での「共助」の大切さを学ぶ避難所ジェスチャーゲーム、防災に関する〇×クイズなど、子どもから高齢者まで楽しく防災を学ぶことができる工夫を凝らした取組を実施し、多くの住民が参加しました。

平時から避難所や避難路等防災施設の維持管理を定期的に行うとともに、平成28年には「地区タイムライン」を作成し、発災時には紀宝町タイムラインと連携しながら避難行動要支援者のサポートを行っています。また、令和2年7月には、新型コロナウイルス感染症流行下における避難所開設・運営訓練を実施し、簡易ベッドの組み立て、体調不良者が出た際の専用避難所での対応などを実施しています。さらに令和2年9月には、町に記録的短時間大雨情報が発表されたことを受け、すぐに地元の小中学生に降雨時の「通学路で危険な場所」のアンケート調査を実施し、町の支援を得て該当場所へのポールコーンの設置が実現しました。

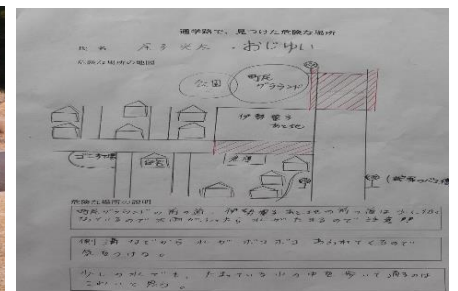
かつて被害を受けた災害を教訓に、行政や地元の小中学校、郵便局、JAなどの幅広い団体と連携した防災活動や子どもから高齢者までが楽しく防災について学ぶことができる特徴的な取組は、他の地域においても大変参考になる取組です。また、平成27年度に「みえの防災奨励賞」、令和元年度に「みえの防災特別賞」を受賞していますが、受賞後も持続性のある防災活動を展開し、常に高い防災意識を持ち合わせており、町の自主防災組織のリーダー的存在として、今後も地域において防災活動の進展が大いに期待されます。



地区タイムライン



防災チャレンジ大運動会



小中学生へのアンケート



タウンウォッチング



新型コロナウイルス感染症対策を講じた避難所開設・運営訓練



令和3年度みえの防災特別賞

特別賞

かぶしきがいしゃやましたぐみ
株式会社山下組

志摩市

「株式会社山下組」は、志摩市内でも特に南海トラフ地震による深刻な津波被害が想定される地域に立地する建設事業者です。災害時には、従業員及びその家族の安全を確保したうえで、地域の災害対応を担うという高い防災意識を持ち、平成27年度から地元市民、従業員、またその家族の安全を守るために出来ることを考え、実践しています。

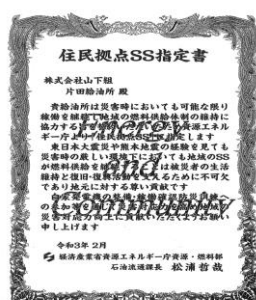
平成29年度から安否確認メールアプリを導入し、全従業員の安否確認のみならず、従業員はそのアプリを活用し、家族の安否確認ができるようになっており、年に数回実施する訓練を継続しています。

地元の和具自治会と協力し、地域の危険箇所についてのパトロールや所有するドローンを利用した被災者発見訓練などに継続的に取り組んでいます。また、事務所屋上を津波避難施設として開放し、事務所3階についても収容人数20人の災害時避難施設として改修を行い、防災グッズを整備するとともに、こうした内容を紹介するパンフレットを作成して周知するなど、地域の防災力の中心となる活動を展開しています。

令和元年度「みえの防災奨励賞」受賞後も、小中学生のための避難道路整備ボランティアや実際の災害を想定した防災無線訓練を実施するとともに、経営するガソリンスタンドを改修し、住民拠点SS指定を受けることにより災害時の地域の燃料供給体制整備に取り組んでいます。従業員が一丸となり社内での防災活動に留まらず、地域とともに防災活動を行うことにより、防災・減災対策に取り組む姿勢は、企業として地域防災に関わる先進的な取組であるとともに、他の企業も大いに参考となるものといえます。



安否確認アプリ



住民拠点SS指定



AED研修



自治会とのボランティア活動



事務所を災害時避難施設に整備



防災無線の整備



ドローンによるパトロール



令和3年度みえの防災奨励賞

かんざきじょせいぼうさい かい
神前女性防災の会「アイリス」

四日市市

「神前女性防災の会『アイリス』」は女性による地域での防災活動の必要性を考え、地域の防災活動に男性だけでなく、女性も参加しようという思いから平成30年度に設立され、様々な防災・減災活動についての疑問や知恵を話し合い、学びながら活動を行っています。

令和元年度には、前年度に学んだパッククッキングを中心とした防災食を作る講習会を自主企画し、年3回の実施により多くの住民が参加しました。また、女性目線で防災を学ぶセミナーの企画運営や地域の防災訓練にて防災グッズの展示や防災食の試食会を行うことで、地域の多くの住民が活動に対して関心を示しています。

また、令和元年度の活動のなかで、子育て世代の参加が少なかったことを踏まえ、令和2年度は、家庭内の防災対策の重要な点である「家具固定」を主なテーマにした、地域の子育て世代へアンケート調査を実施し、結果を受けて「家具固定」を中心とした防災研修を開催して、参加者とともに学びました。さらに、「コロナ禍における避難所の開設と運営」をテーマに女性のための防災訓練を計画し実施しています。

独自に作成した防災情報紙「ちょっと一言」を配布することで防災啓発も展開するとともに、避難所運営マニュアル作成など神前地区自主防災協議会が進める地域の防災対策について女性の立場で参加協力し、地域との連携も図っています。

設立後の継続的な活動により会員も増加している中、常に学び続けようとする姿勢や女性・子育て世代が防災について学ぶ機会を提供することで、地域全体の防災力向上に貢献する姿勢は、他地域でも参考になるものであり、これからの活動発展に期待ができるものです。



防災食を作る講習会



コロナ禍における避難所の開設と運営訓練



手作りマスクの寄付



(収納術と防災備蓄)



(パッククッキング)

女性のための防災セミナー

ぼうさいげんさい ひとこと
よっさんの「防災減災ちょっと一言⑨」

新型コロナウイルスの感染が拡大しています。(4月17日現在) ウィルスには足が長いので、人の体を乗り跳して移動しています。足が動かなければ、ウィルスは動けません。動かなければ感染は広がらない。だから、STAY HOME!、みんなで動かないようにしましょう。ちが寝るのしどころです。

でも、こんな時に避難のような大きな災害が起こったら、どうなるのでしょうか。避難所には、ウィルスがうつりやすくなります。感染するために避難するようになるものになってしまいます。避難所に行かない避難を考えた方がいいかもしれません。

お隣の新聞では、ウィルス感染の第一波が収束しつつあるようですが、これも前回の「サーズ」で大きな被害が出たからこそ、万全の対策が取られたので、被害が小さくならないように、普段からの準備が大切です。

「防災の日増化」「緊急事態宣言が出た。」とあって、スーパーに駆け込む人がいますが、荷も準備してなかったのでしょうか。もしも、1週間前から出たはいいと言われて対応できますか。食糧や日用品の備蓄は最低限から、荷もないときにこそ準備しておくものです。あらゆる災害から自分や家族の命を守る「自助」を普段から考えて行動していきたいと思えます。

防災情報紙「ちょっと一言」

奨励賞

令和3年度みえの防災奨励賞

たいわちくじしゅほうさいれんらくきょうぎかい
大和地区自主防災連絡協議会

桑名市

「大和地区自主防災連絡協議会」は、近年の災害が複雑多様化し、被害が甚大化していることから、危機感を持った有志が集まり、平成28年に準備委員会を設立し、平成29年に現在の連絡協議会を発足させ、活動を開始しました。

発足後は、年に数回開催される役員会や実行委員会を通じて、持続可能な組織づくりを構築しており、平成29年以降、行政や地元小中学校と連携し、避難所開設訓練、炊き出し訓練、災害図上訓練等さまざまな防災訓練を継続しています。

また、地域の防災ネットワーク構築にも取り組んでおり、地区内緊急連絡用の「マチコミメール」を導入、災害時に技術や知見を持った人材が活動できるよう「防災人材バンク」の運用を行っています。加えて、防災新聞の発行や協議会が独自で作成した防災ハンドブックを全戸に配布し、防災啓発にも取り組んでいます。さらに、有事への備えとして、地元企業2社と災害時における支援施設の提供に関する協定書を締結し、地域の災害時の体制を強化しています。

地域の防災ネットワーク構築や有事の際の備えを目的とした地元企業との連携など、様々な災害から地区住民の生命と安心な生活を守り、被害防止及び軽減を図ることを目的としたこれらの取組は、他の地域の参考となるものです。



小学校との合同訓練
(避難訓練)



防災無線訓練



災害図上訓練



大和版防災ハンドブック

災害発生時の際 支援施設と協定を結ぶ!!

災害発生時において、光精工株式会社本社工場様、水谷建設株式会社様のご理解とご協力を得て、下記のような協定書を結ばせていただきました。



避難所設営訓練



防災新聞

災害時における
支援施設の提供に関する協定書

基本内容

- 1 市の指定場所等で常設避難所が開設され、対応ができない場合、近辺の自治会長から要請があったら
- 避難所開設通知書を出す。・・・3日間を提出
- 延長の折は避難所使用期限延長申請を提出
- 使用時、損害を与えた場合は当協議会が責任を持つ
- 使用時の経費は提供会社が負担する
- 飲食等は協議会が対応する
- 2 津波警報発令中
- 2社への避難、但し夜は不在の為
- ビル近辺の避難となる(学校、公民館も同じ)
- 3 通常の避難発令は使用しない

※ 普段から非常用の食料や飲料水等を準備してください。

地元企業2社との協定



令和3年度みえの防災奨励賞

たまきちょうぼうさい 玉城町防災ボランティア

玉城町

「玉城町防災ボランティア」は東日本大震災や紀伊半島大水害への被災地支援をきっかけに玉城町でも災害ボランティアが必要との声があがり、平成23年に組織を結成しました。結成後、行政と連携した防災訓練や地元小学校での防災体験教室、住民を対象とした防災キャンプ、自主防災組織とともにタウンウォッチングなど自発的に防災・減災に関わる活動の実施を続けています。また、平成29年10月に発生した台風第21号による災害では、災害ボランティアセンターを支援し、ボランティア活動を行いました。

令和元年度には他の地域の防災活動を視察し参考にすることで、令和2年度に玉城町版HUG（避難所運営ゲーム）を制作し、普及を進めています。また、子どもから高齢者まで理解できる避難所行動マニュアルや玉城町在住の外国人に避難所について理解してもらうためのマニュアルといった、災害時に活用できる7つのマニュアルを作成しました。

結成後、長きにわたり災害ボランティア活動のみならず、子どもを含め地域住民の防災意識向上に大きく貢献しており、さらに玉城町版HUGや災害時に役立つマニュアル作成など独自の取組を行っている点は、他地域でも参考となるものです。



小学校での防災教室



防災キャンプ
(防災すごろく)



(防災クッキング)



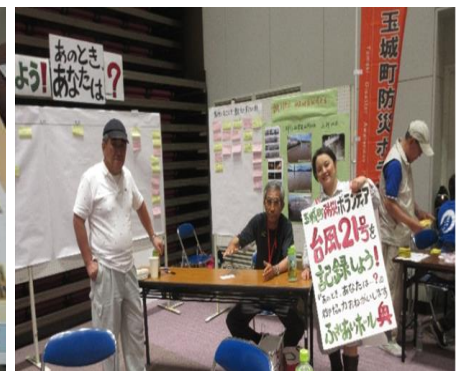
被災した家屋の
片づけ講習会



玉城町版HUG



7つの災害時マニュアルを作成
(避難所行動マニュアルなど)



イベント啓発



令和3年度みえの防災奨励賞

みやまえ きょうぎかい
宮前まちづくり協議会

松阪市

「宮前まちづくり協議会」は、自然災害（土砂災害）から命を守ることを基本方針に小中学校の防災教育、防災人材の育成等を行うことを活動目標として、平成19年9月に設立されました。活動目標に基づき、地元小中学校では、タウンウォッチングやHUGなど防災教育を継続しており、「防災士」や「みえ防災コーディネーター」といった地区の防災人材育成にも努めています。また、11月3日（文化の日）を防災訓練の日と定めて、HUGやHUT（避難所運営体験初動期）など防災訓練も継続しています。

平成25年には災害時緊急支援用に独自の防災カード（要支援事項・緊急連絡先等）を制定し更新を行うことで、避難行動要支援者対策を進めています。また、「声掛け避難モデル」を構築し、地域内で声掛け避難を実践することで逃げ遅れゼロを目指しています。

さらに、県土砂災害情報提供システムを基に、各地区内の班の住宅が判読できるように拡大したハザードマップを作成し、班単位で説明・配布することで防災啓発活動も展開しています。国土交通省とも連携し、拡大版洪水ハザードマップ策定の支援も得ています。

加えて、令和2年度には宮前地区防災計画を策定し、松阪市防災会議にて地区防災計画の提案説明を行い、市の地域防災計画の一部として組み入れることについて承認されました。

今後の取組として個別避難計画の整備や地区防災計画（洪水編）の策定も検討しており、これらの計画的で精緻な取組は、地域の防災意識の向上に貢献しており、他地域でも参考となるものです。



地区防災計画



拡大版ハザードマップ作成・配布



防災カードの制定・更新



小中学校での防災教育
(アクティブラーニング)



(HUG)



HUT (避難所運営体験初動期)
(避難所収容人員算定)



(備蓄資機材取扱)